

2017年(平成29年)12月2日(土曜日)

朱氏(会津大)、富樫氏(福医大)
国際最優秀論文受賞で会見

米国電気電子学会(IEEE、アイ・イー・ト)回認識科学技術国際会



研究成果を発表した(左から)富樫教授、朱上級准教授、郭さん

議で最優秀論文賞を受けた会津大の朱欣(シユ・キン)上級准教授と福島医大会津医療センターの富樫一智教授は一日、会津若松市の会津大で記者会見した。大腸内視鏡画像を基に人工知能(AI)を活用した技術の成果を発表するとともに、実用化への研究を進める考えを示した。

研究では、同医療センターの患者から得た

ポリープの静止画を基にAIでポリープかどうかを見分けるシステムを構築し、約97%と高い診断精度となった。大腸検査は現在、大腸内視鏡を基に目視で行う場合が多いが、五^ミ以下の小さいポリープなどは見落としやすいなど課題がある。システムを応用し、動画での判別や発がん性の有無の診断を可能とするのが目標という。

朱上級准教授は「会津大と福島医大の共同研究ができてうれし

い。AIを医療に生かせる人材育成に努める」、富樫教授は「高精度の結果に驚いた。医療現場の課題とAIがうまくかみ合った」と語った。研究に携わった会津大博士前期課程一年の郭哲(カク・テツ)さんが同席した。

国際会議は十一月、台湾で開かれた。AIの応用技術に関する約百五十の論文が発表され、最高賞の最優秀賞に六つが選ばれた。